

## 神経症

### 神経症とは

神経症とは、「心理的な原因（心因）によって生ずる心と身体の働きの異常で、特有の（1                      ）の持ち主に起こりやすく、いくつかの特徴的な状態（=2                      ）を示す可逆的な障害である」と定義できる。

現代の心の病の分類表を見ると、この「神経症」という病名がないことに気づく。それは、アメリカ精神医学会が発表した『診断と統計マニュアル』（通称 DSM）の第Ⅲ版（1980年版）で「神経症」という病名が削除され、代わって「不安障害」「解離性障害」など、「障害」という言葉が使用されるようになったからである。

この疾患は、ある種のパーソナリティの傾向と心理的なストレスが絡み合って生じるといわれている。さまざまな症状があるが、特に、不安や緊張の症状が続いたり、繰り返されたりする。不安障害（パニック障害を含む）、強迫性障害、恐怖症、適応障害、解離性転換性障害などに細かく分類される。

#### 1 不安障害

対象のはっきりしないものへの恐れや不快な感情のことを（3                      ）という。この症状は、まず「心がしめつけられる」「胸がつまる」「気分が重くなる」など身体感覚から自覚される。

不安にははっきりした対象がなく、まるで空中をふわふわ漂っているように感じられる。そのため、漠然とした危機感や無力感、将来への心配などの感覚が生じてくる。

身体の症状としては、胸がドキドキしたり、呼吸が早くなったりする。さらに、血圧が上がり、口が渇き、やたらと汗をかいたり、冷や汗が出るように感じたりするほかに頻尿、下痢、めまい、吐き気などが現れてくる。こうした症状は、ストレスにさらされれば誰にでも起こりうる。